

インタビュー ROOM

“人と馬をつなぐ” 水口乗馬クラブ 美船 常人指導員



JRAの競馬場では毎週サラブレッドが躍動している。週末を迎えれば華麗な姿を目の当たりにできても日常において馬と触れ合う機会は少ないのが実状だろう。その隔たりを埋めてくれるひとつが乗馬クラブの存在である。栗東トレセンと同じ滋賀県で活動を行う水口乗馬クラブへお邪魔させていただき、指導員の方々を代表して美船常人さんにお話を伺った。

——どうぞよろしくお願ひいたします。

美船氏「こちらこそ、よろしくお願ひいたします」

——素晴らしい景観ですね。河川敷があって田んぼがあって。緑に囲まれて癒されますよ。馬も随分とのんびりできそうに感じます。

「ありがとうございます。広い放牧場もありまして毎朝、ほとんどの馬がそちらで自由にしています。2、3時間は自分の好きなところでリラックスしていますので穏やかですね。ストレスのない馬のほうが多いと思います」

——美船さんは指導員さんという肩書でいらっしゃるようですがどういったお仕事なのでしょう。

「お客様に乗馬の指導をさせていただくというのがまずあります。重ねて馬の調教や様々な作業を行いながら選手として競技会にも出場をしています。僕はこのクラブで働き始めたのが1996年ですので20年近くに

なりますね」

——乗馬経験を生かせるお仕事を選ばれたわけですね。

「いえいえ。当時は普通の競馬ファンだったんですよ。京都で大学生活を送りまして、友人に連れられて京都競馬場へ行ったのが興味を持ったきっかけです。馬に携わる仕事に就ければいいなという思いは漠然とありました。生まれ育ったのがこの近所でした。いいタイミングでクラブが開設されたので面接を受けたんです。よほど人手不足だったのでしょうか（笑）。採用されましていまに至ります」

——そうなんですか。乗馬と無縁だったとはびっくりしました。

「馬に乗ってみたいという気持ちは抱いていましたがそういった場所の有無もわかりませんでしたからね。クラブの存在を知り乗馬という世界もあるのだと新鮮な驚きがありました。馬に触れることから始まりだったので。ここでのお世話にならなければ馬に携わる仕事には就いていなかったかもしれません。経営者の谷口（谷口真一氏）はふたつ年上で指導員では僕が最年長でしたね。ほかの指導員は高校を卒業して就職していましたから」

——馬術部で活躍されていたらしゃった方

なんでしょうね。

「その人も僕と一緒にこの仕事に就いたのちに馬に乗り始めたんですよ。谷口も22歳か23歳で乗馬をスタートしています。もともとはこの近所のスイミングスクールでインストラクターをされていて、トライアスロンの世界大会にも出場するなど際立った運動神経を持っています。県外に在住の方々も訪れてくださるような施設をつくりたいという水口町の考えのもと、プール事業部に加えて乗馬事業部ができたと聞いております。依頼を受けた谷口がほかの乗馬クラブで1年間研修したあとにここが開設されました。表現はあまりよくないかもしれませんが当時は素人集団に映ったのではないのでしょうか」

——実はこちらにお邪魔した瞬間からとても開放的で力みが取れるような感覚がありました。クラブの成り立ちをお聞きして納得しましたよ。

「はい、そこがうちの特徴だと思っています。体育会的な感じではなくスポーツクラブの延長のような雰囲気でしょうかね。お子さんが多いので楽しく遊ぶように馬を習得していくムードはあります」

——谷口さんは全国大会でも素晴らしい成績を重ねていらっしゃるんですよね。乗馬を始められた年齢を考えると規格外の方ではないでしょうか。

「そう思います。国体の馬術競技で優勝経験もありますし凄いですね」

——会員となり乗馬のレッスンを受けられるお客さんが多いと思います。ほかの形で馬と触れ合うとなるとどういったものがありますか。

「ファームステイというのがございまして乗馬に加えて馬の世話や厩舎作業などもしていただきます。寝泊まりをしながらでちょうど牧場生活のような感じですね。夏休み



野洲川の河川敷に広がる緑に囲まれた水口乗馬クラブの馬場



2015年小倉記念 松若風馬騎手騎乗のアズマシャトルが大外から差し切り、人馬ともに重賞初制覇



記念撮影で笑顔を見せる松若騎手は水口乗馬クラブの出身



JRA重賞を3勝したダッシュャーゴーゴーも在籍

や春休みに実施してましてそれを機に乗馬を続けてみたいと会員さんになってくださる方々もいらっしゃいます。もちろん、一般的な体験乗馬のコースがありますので続けられる皆さんは会員さんになってくださり頑張っている方もいらっしゃいます。現在で会員さんは約430~440名ですね。3歳ぐらいのお子さんたちから75歳ぐらいの方々まで年齢層は幅広いですよ。70代の皆さんですと、クラブがスタートした当初から続けられている方や60代の後半で始められた方など様々です」

——こうしてお話を伺っている最中も若い男女の皆さんが随分と熱心に乘られていますね。

「あれはジュニア合宿の最中ですね。ジュニアの全日本大会に出場するお子さんや出場を目指しているお子さんが谷口の指導を受けているところです」

——年齢層でいうとどのあたりになるのでしょうか。

「うちのクラブでは大学生までを称しています。ジュニアの会員さんは100名近くいらっしゃいまして全国大会でも好成績を挙げているので嬉しいですね」

——騎手を目指しているお子さんもいらっしゃるのでしょうか。

「騎手免許を取得してデビューしたのは風馬君（松若風馬騎手）が初めてです。彼を含めてJRAの競馬学校に合格したのは3名ですね。去年、角田さん（角田晃一調教師）のご長男の大和君が第6回ジョッキーベイビーズ（2014年10月12日・東京競馬場）に優勝しました。それと風馬君の活躍もあって騎手志望で会員さんになられるお子さんが増えています」

——ジョッキーベイビーズはポニー競馬ですが皆さんどちらの馬場で練習されるのですか。

「いま3つに仕切られている正面の馬場がありますよね。柵を取り払って馬場をひとつにしてスピードを出せる状態で行っています」

——競馬と接点があるというのは美船さんにとってハッピーなことでしょうか。

「大学時代、競馬に興味を抱いた当初に騎手時代の角田さんを応援させていただいていました。ノースフライトに騎乗されていた頃ですね。息子さんである大和君と弟の大和君がファームステイを体験してくれまして。それを機に会員さんになってくださり僕が教えさせていただくことになるなんて夢にも思わなかったですね。角田さんが見えになることもありますし憧れの方とお話ができてこの仕事に就いて本当によかったと思います（笑）。これはあくまで競馬ファンとしての個人的な感情ですので。すみません。」

指導員の立場でいえば調教師さんや騎手の方々など乗東トレセン関係の皆さんと交流させていただくことでクラブは隆盛していると感じます。開設して10年目ぐらいから訪ねてくださるようになりました。秋山さん（秋山真一郎騎手）は14年間ぐらいですかね、会員さんでいらっしゃいます。技術向上を含めてということで以前はよく足を運んでくださっていました。その他、トレセン関係の方々のお子さんが見えになっています」

——競走馬を引退して乗馬クラブで新生活を送る馬も多いですよね。トレセンとの関係が密になるほどどちらもいい方向に進むように感じます。

「ええ。クラブに在籍している約80頭のうち50頭近くはトレセンからの移籍馬です。調教師の方々も乗馬に適しているか否かを判断されたうえで譲ってくださいます。馬運車での輸送はお越しいただく場合とこちらからお邪魔させていただくケースとどちらもありますね。去勢はこちらで行います。気性面でいうと優しくて穏やかに走って

くれる馬がいいですね。競技に出場するような馬はバネがあればより適していると思います。能力的なものも大切ですがベースになるのはやはり気性ですね。おとなしいというのが大切な要素になってきます」

——競馬ファンの皆さんにおなじみだった馬は在籍していますか。

「いまはダッシュャーゴーゴー（元安田隆行厩舎・重賞3勝）でしょうね。安田さんのご長男さん（安田景一朗調教助手）がうちに来てくださっているお子さんのお母様とお知り合いです。そのご縁があってお譲りいただきました。競走馬を引退したばかりの馬にまたがることは度々ありますがその感覚で乗ると全く違いましたね。オープン馬は凄いなと思いましたよ。短距離馬なのですぐにトップスピードに入りますから。このまま走ると止められないという恐怖感がありました。去勢までで現役に近い感触を味わいたいと考えたのですが驚くばかりでした（笑）。3月に来て6月の競技会には出場しています。速いスピードで走りたそうな



2014年ジョッキーベイビーズで優勝した角田大和君（角田晃一調教師の長男）も水口乗馬クラブの出身

藤村和彦のインタビュールーム



気配を見せるときはありますが同時に落ち着いて走ることもちゃんと覚えてきてくれていますね。競走馬として高いレベルで活躍した馬は賢いと感じます」

——名前も現役時代と同じままですね。競馬ファンの皆さんもより親しみが湧くのではないのでしょうか。美船さんにお聞きしたいことがもうひとつあります。こちらでは不登校のお子さんの受け入れをされていらっしゃるんですね。

「ホースプレースクールといましてご協力させていただいております。不登校のお子さんが会員さんのなかにいらっしゃるのがきっかけですね。水口町の教育委員会と連携いたしまして、町内にお住まいのお子さんであればここで勉強や馬の世話をすれば出席扱いになるという取り組みから始まりました。水口町が甲賀市となって以降は市内全域の世帯が含まれるようになりました。のちに他府県からも問い合わせがありましてそちらに関しては学校長の許可があれば出席扱いになるという現況です。

学校に行けないお子さんは周囲とコミュニケーションを取ることが容易ではないように見受けられます。馬にまたがると自分の合図に応じてくれる。それで意思が通じたという感動や自信が芽生えるのだと思います。そこから発展して指導員である僕たちやほかの会員さんたちとコミュニケーシ

ョンを取ることができるようになり、学校や社会との繋がりが持てるようになっていくのではないかと捉えています。登校するようになっても皆さん乗馬を続けてくれていますから嬉しいですね」

——幅広い年齢層とともにお子さんがたくさんいらっしゃいます。馬に乗ることだけでなく乗馬クラブが請け負う役割は多岐に渡るんですね。

「お客様それぞれの目標があります。おひとりおひとりの思いを的確につかんで、それを指導員全体でひとつのものとして共有できれば理想ですね。その気持ちを強く抱いているのですが本当に難しいです。開設して19年ですからその域に達するまではまだまだ試行錯誤を重ねていく必要があると考えています。

開設当初から"全世代誰もが楽しめる日本一ユニークな乗馬クラブ"を目標として運営しています。全世代誰もが楽しめるという部分はこれまでお話させていただいた内容に含まれていると思います。日本一ユニークな乗馬クラブとありますのは、あらゆる娯楽施設にもないような魅力的なものをご提供したい。そういう乗馬クラブでありたいという願いが込められています」

——風通しのよさを終始、感じます。本当に居心地のいい空間ですね。

「ありがとうございます。この理念を追求

して達成できるようにスタッフ一同頑張っています。幼い頃にここで乗っていて指導員として就職している人もいます。嬉しいですね」

——競馬ファン・美船さんご健在でしょうか。

「はい(笑)。好きが高じてクラブ法人さんで一口所有している馬が1頭います。1勝馬でして勝ったときの騎手が風馬君なんです。幼い頃に指導させていただいたお子さんに乗ってもらって、さらに勝たせていただいたのですからね。感無量です」

——馬を通じての繋がりとというのは凄いですね。きょうはたくさん癒していただきました。ますますのご発展を祈っております。本日はありがとうございました。

「恵まれた環境のもと、皆様のお陰で日々楽しく働かせていただいております。こちらこそどうもありがとうございました」



藤村和彦
(ふじむら かずひこ)

1991年にスポーツ新聞社に入社。翌1992年から2010年まで中央競馬を担当。同年に退社。現在は本誌で「藤村和彦のインタビュールーム」等を担当。ラジオ関西・競馬ノススメ(毎週土曜16時30分~17時)にレギュラー出演するなどフリーランスで活動している。